

(仮称)関西元気プラン ～近畿圏広域地方計画～

近畿圏の目指す姿(たたき台)

1. 「ほんまもん」を味わえる近畿

- ①近畿圏は古くから日本文化の中心であり、都市や地域の生業と一体に培われてきたものである。今なお残る本物の伝統文化や文化遺産、潜在的な地域文化や食文化、風土・風景に裏打ちされた趣のあるランドスケープ、日々営まれてきた生活文化・ライフスタイル、日本のアイデンティティを構成する大切な地域の文化資産として保存・継承し、世界に「日本の心」を発信する。
- ②京都・大阪・神戸・堺市など各都市・各地域が協調と競争により個性ある日本人自らの文化創造に取り組み、日本らしい技術、意匠、機能、コンテンツやライフスタイルなど育て、みがき、世界に発信する。
- ③文化遺産等を活用しつつ、外国人旅行者の受け入れ態勢の整備、地域住民の生活と共存する新しい観光資源の開発、国際会議や地場産業等と融合した観光メニューづくりにより、国内外から観光客が訪れる国際観光地を目指す。
- ④国内外とネットワークした阪神港・関空・道路網を活用し、安全で質の高い農産品をはじめとする生鮮食料品が伝統的で高度な料理技術と目の肥えた消費者のもと、安定かつ効率的に加工・流通・調理される「日本の食文化の拠点」を形成する。
- ⑤近畿圏の文化資本に裏打ちされ、「クールジャパン」として世界に認識される日本食、すし、アニメ、マンガなどの日本のソフト文化について、世界に向け情報発信し、世界の普遍性に拡げていく。

2. 人・モノ・情報の表玄関・交流拠点

- ①大阪湾ベイエリアを近畿圏及びその周辺地域を含めた「グレーター近畿(西日本)」とアジアとを結ぶ人流・物流の表玄関として位置付け、阪神港や関西国際空港など既存のインフラストラクチャーの効率的活用及び機能強化により、国際競争力のある拠点として整備し、また、東アジアに近接する日本海側諸港湾も活用し、アジアをはじめ世界と結ばれる国際交通ネットワークを形成する。
- ②分野を越えた人と人との濃密なコミュニケーション(異なる価値感の融合)を新たな価値を生み出す社会資本(ソーシャル・キャピタル)として認識し、大阪駅北地区を初めとする大阪都心部を関西の玄関口としての立地を生かした国内外に誇れる人・知識の集積・交流する知的創造拠点と位置付け、世界へ関西ブランドを発信する機能を導入する。特に、ロボット産業をはじめとする次世代の科学技術・産業分野の創造拠点形成をトリガーにし、さらに、文化・芸術など幅広い学術・研究に携わる人たちの交流の場を創出する。

- ③近畿圏における最先端の大学・研究機関等の集積や、アジアとの歴史的・人的繋がり、充実した航空ネットワークを活かし、アジアの優秀な人材を積極的に受け入れ育成することで、相互に厚い信頼関係を築き、将来的にアジアからの人的・経済的な投資を呼び込む。
- ④西日本の情報発信拠点として、最先端情報通信技術を駆使し、正しい情報をリアルタイムに直接アジアや世界と交信できる圏域を目指す。
- ⑤産業構造の変化等に伴い発生している大阪湾ペリエリア等の大規模な低未利用地について、近畿圏が人・モノ・情報の表玄関としてふさわしいものとなるよう土地利用転換を行い、広域的観点からの都市機能の適正配置を実現する。

3. 地域を支える産業・雇用の創出

- ①近畿圏における産業展開のために港湾等の物流基盤の整備・活用を行い、産業集積と有機的に結びつけ、企業の物流コストの削減を図り、さらなる企業立地に向けた好循環の形成を目指す。

コメント [Y1]: 国土形成計画 P51
第2節より

コメント [Y2]: 国土形成計画 P52
(1)より

4. 最先端技術と立地を活かした高付加価値産業拠点

- ①大阪湾ペリエリアに、コンテナターミナル等と一体的に機能する高度で大規模な物流拠点を整備することで、競争優位な技術と人流・物流拠点としての強みを最大限に生かした高付加価値産業を集積させ、近畿圏にその分野での国際的な産業拠点を構築する。
- ②世界最高水準の大学、研究機関、企業の分厚い集積を活用し、ライフサイエンスの国際拠点として、世界のバイオクラスターに比肩する「バイオの都」となる圏域を目指すため、近畿圏が競争優位にある医療（創薬・再生医療）、先端の解析機器、ものづくりバイオ（バイオプロセス・環境・食）分野を重点に国内外の取り組みと連携しながら多様・多層なクラスターの形成を図る。
- ③近畿圏に集積する独自の高い技術力を持つ企業、産業支援機関、公的研究機関、大学等の蓄積を活かし、世界に通用する未来型情報家電・ロボット、高機能部材、燃料電池などのエネルギー関連装置・機器等、次世代産業の集積地の形成を目指す。
- ④近畿圏で育まれてきた蓄積やイメージ等の立地条件を活かすとともに知的財産も活用し、国内における一大ブランド産地づくりを目指す。また、「安心」や「環境への配慮」というセールスポイントをアピールし、東アジアをはじめとする海外への農林水産物の積極的な輸出を図り、世界に通用する近畿ブランドの産地育成を目指す。
- ⑤近畿圏は、環境関連の企業集積や技術シーズを有する大学・研究機関が存在しており、こうしたポテンシャルを活用し、環境負荷低減に寄与する新技術・新商品の開発やサービスの提供等環境産業の拠点を形成する。
- ⑥グローバルな企業間競争の激化の中、企業の競争力強化を図るため、国際港湾等による東アジア等とのアクセス網の充実を図り、経済的効率性や多様な産業クラスターの集積による国際競争力の向上を目指す

5. 「都市」と「自然」を日常的に享受できる圏域

- ①大都市・農山漁村・自然が近接した圏域である特色を活かし、道路・河川・鉄道・港湾・情報通信等のネットワークが比較的発達した特性を活かして、近畿圏に住むすべての人々が都市の文化、農山漁村と農林漁業などによる心の安らぎ・自然の恵みの両方を日常的に享受できる圏域（例えば近畿圏日帰り圏域構想）を目指す。
- ②太平洋、日本海、瀬戸内海の独自の魅力を持つ3洋に面する近畿圏において、港湾等のネットワークを活かし、地域相互間での人や物の移動及び交流が活性化する圏域を目指す。
- ③都市と農山漁村が適度に分散し、近い距離で存在する中で、農山漁村は食料供給機能のほか水源かん養機能や景観形成機能等の多面的機能により都市を支え、都市は農産物の市場や農村への交流客として農山漁村の活性化に寄与するなどお互いを補完しつつ、都市と農山漁村の共生・対流を進め、都市・農山漁村・自然がバランスよく配置された国土形成圏域を目指す。
- ④多様なライフスタイルを実現できる地域として、質の高い生活を求める国内外の人々が暮らしたいと思う圏域を目指す。（圏域として受け入れる）。
- ⑤日本の中でも早期に少子高齢社会が訪れる近畿圏において、これまでの経済効率を優先した都市の構造を、生活重視のライフスタイルとユニバーサルデザインの観点から、子供からお年寄りまで快適に暮らすことができる住宅・居住環境と医療・教育・福祉が一体となった総合的な公共サービス、安心できる地域コミュニティがある空間として都心部を再生する。
- ⑥子供を安心して遊ばせることができる施設や家族が子供と一緒に遊びに行くことができる施設を充実させ、あわせて女性が働きやすい就業環境の仕組みを整備して、安心して子育てできる圏域を目指す。
- ⑦都市に住み農山村での生活・余暇を望んでいる人たちが、農山村への住み替えや「二地域居住」が可能な住環境と制度を整備する。
- ⑧以上のような人口減少・少子高齢化社会に対応した先進的な取り組みを蓄積し、新たな都市再生モデル（ビジネスモデル）として、国内外の地域へ発信する。
- ⑨従来、地域の重要な機能を担っていたが、近年社会的ニーズの変化により地域に残されがちな貴重な水辺空間等の既存ストックの機能転換等を図ることにより、地域の個性を活かした賑わい空間等の創出を図り、魅力ある地域づくりを目指す。

コメント [Y3]: 既存ストックの有効活用の視点より

6. 次代に誇れる日本のくにづくりを牽引する“西日本の雄”

- ①近畿圏が及びその周辺地域を含めた「グレーター近畿（西日本）」の雄としての自覚のもと、中部圏と一体となって世界において存在感のある経済競争力を有する圏域を目指す。

- ②大規模災害に対する防災・減災基盤を整備し、災害への対応力を高めるとともに、災害発生時における迅速・確実な情報発信などが行える体制を構築する。また、首都圏での災害等発生時における首都機能のバックアップ機能を担える体制とするとともに京阪神都市圏における基幹的防災拠点の形成を目指す。
- ③阪神・淡路大震災の経験や、安政南海地震による津波発生時の「稲むらの火」に代表される高い防災意識、防災・安全に係る研究・教育機能の集積を活かし、防災分野における研究・教育と実務(平常時のシステム整備、災害時の情報収集・応急復旧、その後の復興、人道支援、こころのケアなど)を兼ね備えたアジア・太平洋地域の国際安全拠点を形成する。
- ④港湾等の基幹的な交通施設について基盤整備を行うことで、東南海・南海地震等の地震時における救助・救援活動や緊急物資輸送等の輸送ネットワーク確保を目指す。
- ⑤わが国有数の人口集積と土地の高度利用が進んでいる大阪湾ゼロメートル地帯における高潮対策と臨海部の総合的な津波対策を促進し、圏域の災害リスク低減をはかる。
- ⑥農業・農村のもつ洪水防止機能や土砂流出防止機能等の災害防止機能の堅持、耕作放棄地の発生防止等の健全な国土利用を図る観点も含め、農業構造の改革や企業の農業参入等の推進により近畿圏域の農業の潜在的な力を引き出し、将来も継承され得る効率的な農業生産の確立を目指す。
- ⑦都市と農山漁村が適度に分散し、近い距離で存在する中で、農山漁村は食料供給機能のほか水源かん養機能や景観形成機能等の多面的機能により都市を支え、都市は農産物の市場や農村への交流客として農山漁村の活性化に寄与するなどお互いを補完しつつ、都市と農山漁村の共生・対流を進め、都市・農山漁村・自然がバランスよく配置された国土形成圏域を目指す。[再掲]

コメント [Y4]: 国土形成計画 P73
(地震対策)より

コメント [Y5]: 国土形成計画 P75
(高潮対策)より

7. 人と自然が共生する持続可能な先進圏域

- ①京都議定書や世界水フォーラムなど環境をテーマとする国際交流の実績を活かし、人と自然が共生する環境先進圏域として、環境負荷を低減するライフスタイルを提案・実践する。また、モデル地域において高いレベルの保全・再生に戦略的に取り組みを推進することにより、国内外を先導する圏域を目指す。
- ②河川・森林・農地用等を含めた施策の総合化、ソフト・ハードを含めた総合的な流域治水をはじめとした水の安全安心の確保、上下流連携による健全な水環境の保全と回復、健全な生態系の保全等を進め、自然と人と都市が共生する流域圏の再生を図る。
- ③上記の取り組みの中で培われた地球規模の環境問題を解決する新技術やシステムを、アジア諸都市の環境再生や人材育成に活用することで、アジアを先導し頼られる圏域を目指す。
- ④食料の大消費地と食品加工地域を抱える近畿圏において大量に発生する食品残渣をはじめとする各種のバイオマスを、発生地域内での利活用を進めることにより、有機資源の循環型圏域の確立を目指す。

- ⑤生活の歴史の中で形成されてきた美しい2次的自然を次世代に継承していくため、自然と人間の営みの調整がとれた圏域形成を目指す。
- ⑥大阪湾等において良好な自然環境の保全・再生に取り組むことにより、次世代に良好な環境圏域を目指す。
- ⑦効率的で安全性の高い循環資源等の輸送システムを活用するとともに、リサイクルポート等の静脈物流拠点の形成を図る。
- ⑧大阪湾圏域等から発生する廃棄物を適正に処理し大阪湾圏域の生活環境の保全を図るため、海面処分場等を整備し、一般廃棄物等の適正な処理を目指す。

コメント [Y6]: 国土形成計画 P96
(2)より

コメント [Y7]: 国土形成計画 P91
(循環資源等の適正な利用・処分
に向けた仕組みの充実)より

コメント [Y8]: 国土形成計画 P91
(循環資源等の適正な利用・処分
に向けた仕組みの充実)より

8. 「共助」型の新社会モデルの推進圏域

- ①近畿は、歴史的にも民の力が強く「新たな公」が育つ風土がある。また、近畿発のものづくりや研究開発が示すように、付加価値の高い多様な技術シーズをもつ企業や人材も多い。こうした風土や豊富な人材をもつ強みを活かし、上記(1. ～6.)に示す各分野の目指すべき姿の実現に向け、市民・企業・団体が公共と連携(共助)した体制を構築する。
- ②広域的な課題、地域ブロックレベルでの競争力を高めるため、協働して対処することが望ましい事項や得意・不得意の分野についてお互いに補完し合うことが望ましい事項について市町村間のみならず、府県間での連携(共助)、を積極的に推進することで、地域の絆と圏域の求心力を形成する。

＜反映していない意見＞

修正箇所	修正事項(赤字)
1. (追加)	・ 伝統的産業を継承してきた技に新たな発想を加え、新産業、新製品を生み出す。
1―③	・ 文化遺産等を活用しつつ、地域の特色を活かした個性あふれる観光地づくり、外国人旅行者の受け入れ態勢の整備、地域住民の生活と共存する新しい観光資源の開発、国際会議等の誘致や地場産業等と融合した観光メニューづくり、これらの情報発信により、国内外から多くの観光客が訪れる国際競争力のある観光地を目指す。 ・ 歴史的な風土を活かした景観や、文化遺産などの歴史的文化資本を活かし、外国人旅行者の受け入れ態勢の整備、地域住民の生活と共存する新しい観光資源の開発、国際会議や地場産業等と融合した観光メニューづくりにより、国内外からの新たな集客を図る。 ・ 文化遺産等を活用しつつ、外国人旅行者の受け入れ態勢及び交流基盤の整備、地域住民の生活と共存する新しい観光資源の開発、国際会議や地場産業等と融合した観光メニューづくりにより、国内外から観光客が訪れる国際観光地を目指す。
2―②	・ 分野を越えた人と人とのコミュニケーション(異なる価値感の融合)を新たな価値を生み出す社会資本(ソーシャル・キャピタル)として認識し、大阪駅北ヤードをアジアの人々が互いに交流するビジネス交流やコンベンションの拠点として整備する。
3―②	・ 近畿圏が競争優位にある医療分野(再生医療・創薬等)における世界最高水準の大学・研究機関、先端的分析機器等の関連サービス企業等の蓄積を活かし、医薬品の審査・許認可体制の整備や国内外の取り組みとの連携等により、持続的に発展することのできるバイオ・ライフサイエンス研究拠点を形成する。
3―③	・ 異なる生活慣習を有する外国人に対して、適切に多言語で対応できる医療スタッフが充実した医療施設を整備することにより、アジアから最先端医療を必要とする患者を積極的に受け入れる体制を構築する。
3―④	・ 近畿圏が競争優位にある燃料電池、ロボット、情報家電、コンテンツ等の新産業創造拠点を集中的に整備し、これらの分野において日本やアジアをリードする圏域を形成する。
4	・ (標題の変更)(例):「少子高齢化など標題とあっていないところが多い。少子高齢化が主題では？」
4―②	・ 農村暮らしなど多様なライフスタイルの実現の場として、質の高い生活を求める国内外の人たちが憧れ、移り住む圏域を目指す(圏域として受け入れる)。 ・ 豊かな多様なライフスタイルの実現の場として、質の高い生活を求める国内外の人たちが憧れ、移り住む圏域を目指す(圏域として受け入れる)。

4－④	・ 子供を安心して遊ばせることができる環境整備や、家族で楽しめる施設を充実させ、あわせて女性が働きやすい就業環境の仕組みを整備して、安心して子育てのできる圏域を目指す。 ・ コミュニティの中で子どもが安心して遊べるよう、地域の連携を深めるとともに、あわせて女性が働きやすい就業環境の仕組みを整備して、安心して子育てできる圏域を目指す。
5－①	・ 「中部圏と一体となって」を削除する
5－④	・ 阪神・淡路大震災を経験したことによる高い防災意識、防災・安全に係る研究・教育機能の集積を活かし、防災分野における研究・教育と実務を兼ね備えた世界的な国際安全拠点を形成する。
6.	・ 近畿圏は、琵琶湖、淀川水系や臨海の工業地帯といった地理的特性から、環境関連の企業集積や技術シーズを有する大学・研究機関が存在しており、こうしたポテンシャルを活用し、環境負荷低減に寄与する新技術・新商品の開発やサービスの提供、さらには環境システム構築を含めた持続的・効率的な循環型社会形成を目指す。
7(追加)	・ 従来型の地域コミュニティが崩壊しつつある中で、地域の中の住民組織やNPO等の異分野の多様な組織が連携し、新たな地域コミュニティづくりを行い、地域社会の維持・活性化を目指す。
7－①	・ 広域的な課題など協働して対処することが望ましい事項や地域適性により互いに補完し合うことが望ましい事項について地方公共団体間の連携(共助)を積極的に推進することで、地域の絆と圏域の求心力を形成する。
7－①	・ (広域的な連携を検討すべきテーマについて。特に国土交通省所管事業を含めて挙げれば真実味が出ます。例えば「河川・湖沼、海域、道路、港湾、近郊緑地、休耕農地…の一体計画・管理」など。)

その他の意見

(全体の構成等に関する意見)

- ・ 「近畿圏広域地方計画」のおおまかな構成イメージ(案)の「骨太の柱(近畿圏の戦略)」(案)につきましては、5月8日の全体会議での一部意見にもありましたように、「柱」(施策分野のイメージ)と「戦略」(多面的効果をもつ総合的な方策)とは異なるものであると思います。手直していただいた骨太の柱の①～⑦は、あくまで「柱」のキャッチフレーズであり、「戦略」ではないと思われます。近畿圏の目指す姿(分野別)とそれを実現する戦略は、別建てにして記載したほうがわかりよいと思います。
- ・ 大前提として、おそらく、幹事会でも指摘されると思いますが、①柱の表現は、もっと、インパクト

トのある表現ぶりが必要。②柱の説明は、ずらずら列記するより、もっと、コンパクトにしたほうが良いのでは。と、考えます。

- ・ 関西の特色を打ち出していくのは評価されるが、そのために誰から評価されるか(アジア・世界から評価される)ということが前面に出すぎているのではないか。この圏域に暮らす人々の生活をどうするか、という視点が見えにくくなっている。
- ・ 法定名称としての「近畿圏広域地方計画」はやむを得ないとして、計画の中ではすべて「関西」の呼称で統一すべきではないか。
- ・ 「骨太の柱」は国の経済財政諮問会議の「骨太方針」を連想させるので「関西が目指す姿」としてはどうか。

(各柱に関する意見)

「1. 「ホンモノの日本文化」を味わえる近畿」について

- ・ 「ホンモノ」と言えば「ニセモノ」があるのか、という議論になるのではないか。他の地域にも多様な日本文化は存在する。「ホンモノ」という表現は不適切ではないか。むしろ、生活を豊かにする市民文化の先進地、日本の伝統文化だけでなく、各地の多様な文化、新たな文化の創造も含め、文化の継承・発信の中心地「みやこ」としての「関西」をつくっていくことが目指す方向ではないか。
- ・ 標題を「多様な日本文化を味わえる近畿」や「豊かな日本文化を味わえる近畿」としてはどうか。②について:近畿には、京阪神のほかに様々な個性ある地方都市や農山漁村が存在することから、そうした点についても触れてはどうか。③について:近畿には5つの世界遺産が存在することを、この項目でとりあげてはどうか。

「2. 人・モノ・情報の表玄関・交流拠点 について

- ・ 「表」玄関とすると「ウラ」玄関があるのか、という議論になるのではないか。ここでの記述とは、大阪湾ベイエリアを関西(西日本)の表玄関として整備する、という方向性だけであり、それは関西の目指す姿ではなく、そのための方策としてのベイエリア整備であるはず。人・モノ・情報の交流拠点として、特にアジアを意識しながら、大学等による人材育成、関西国際空港や阪神港を活かした人の交流・物流拠点、環境や防災、文化、最先端の研究成果等を情報発信する「関西」をつくっていくことが目指す方向ではないか。
- ・ 「グレーター近畿」については定義付けが必要。

「3. 最先端技術を活かした高付加価値産業拠点」について

- ・ ①について:大阪湾ベイエリアに高付加価値産業を集積させることについては議論が必要ではないか。③について:医師確保については、大きな国内の課題であることから、外国人対策について触れるのであれば、圏内の医師確保対策についての記述が必要。④について:「都心部に新産業創造拠点を整備し」とあるが、このことについても議論が必要。

「4. 「都市」と「自然」を日常的に享受できる圏域」について

- ・暮らしやすい、生活環境の向上として都市の整備が書き込まれているが、「自然」を享受できる「多自然居住地域」の地域づくりが言及されていない。都市整備だけでなく、多自然居住地域の地域づくりがあって地域農業や地場産業が成り立ち、都市農村交流や二地域居住が可能になる。「都市」と「自然」の魅力が享受できる「関西」をつくっていくために、多自然居住地域の地域づくりについて記述する必要がある。ユニバーサル社会づくりは都心部だけの問題ではないので、「都心部の再構築」ではなく「空間の再構築」とすべき。また、こうした取り組みは都市に限らないので「都市再生モデル」よりも「地域再生モデル」とすべき。それはビジネスモデルとしての取り組み以外の地域の暮らしの向上のモデルとなるものであるはず。
- ・ ②について：他に記載されている様々な目標が達成された結果として、②は実現すると思われるので、他の項目と並列に記載することに違和感を覚える。

「5. 健全な日本のくにづくりを牽引する“西日本の雄”」について

- ・ アジア・世界をリードする先進圏域を目指す、という意気込みは大切であるが、関西が独自性を発揮することがこの計画が描く「目指す姿」であることを考えると東京圏に対抗するかのような柱立ては適切ではないのではないかと考える。「健全な」という言葉は倫理的な意味も含めきわめて多義的であり不適切な表現と考える。グレーター近畿の表現もわかりにくい。近畿圏と近畿の使い分けがわかりにくい。むしろ、この中で中心的に記述している防災の先進地、国際的な安全の拠点となる「関西」をつくることを目指すべき姿として柱立てすべきである。
- ・ 「次代に誇れる日本のくにづくりを牽引する“西日本の雄”」や、「美しく、暮らしやすい国土づくりを牽引する…」としてはどうか。

「6. 環境先進圏域」について

- ・ 工夫して文化と統合できるのではないかと。
- ・ 「人と自然が共生する持続可能な先進圏域」としてはどうか
- ・ 環境保全・創造の先進的な取り組みとして、瀬戸内海という閉鎖性海域や琵琶湖の取り組み、コウノトリの野生復帰、尼崎や堺における工場跡地の緑の復元についても言及しておくべきではないかと。また、3Rをはじめとする循環型のライフスタイル、自然と人が共生する地域づくりなど、地域の生活との関わりにおいて環境先進圏域を目指すべきである。

「7. 「共助」型の新社会モデルの推進圏域」について。

- ・ 新社会モデルというのであれば、住民による主体的な地域活動が幅広く展開され、地域づくりが住民主体で進む地域を目指すものであるはず。ボランティア元年は関西からであり、阪神間の市民文化、市民社会は新しい「公」の先進的なライフスタイルである。こうした地域社会を新しい社会のモデルとして推進する圏域とするのであれば、目指すべき姿と考えられる。
- ・ 「共助」は住民、地域の助け合いとして一般に理解されるのではないかと。地方公共団体間の連携を「共助」と呼び、新社会モデルと呼ぶのは適切ではなく、目指す姿として打ち出すものではない。地方公共団体が連携して広域的な課題に取り組むことは、目指す姿を実現するため

の推進体制ではないか。

(計画の愛称に関する意見)

- 計画の愛称について。今のところ「仮称：関西元気プラン」でいいと思います。が、タイトルに「関西」を使うのであれば、法定名である「近畿圏広域地方計画」を除き、本文内の表記はすべて「関西」に統一すべきと思います。